

# 2014年度日本福祉文化学会第2回理事会・第1回評議員会議事録

期日：2014年10月4日（土）10:00～12:30

場所：別府ビーコンプラザ 中会議室

## 《理事会》

### 開会

定足数 11名 出席者数 13名 委任状 6名

### 1. 議長選出

石田易司副会長

### 2. 前回理事会議事録の確認

### 3. 理事会議事録署名人の選出 國光登志子会員、多田千尋会員

### 4. 協議事項

#### 第1号議案 2014年度前期事業報告と後期事業予定

##### 1) 第25回全国大会大分大会

・現在参加者140名

##### 2) ブロック活動

#### ○関東ブロック

〈前期〉・関東ブロック実践・研究交流会〈第2回クロスブロックセミナー〉開催  
「福祉現場で求められる職員の質とは何か？」

〈後期〉・実践・研究交流会実施予定…「ちづる」上映会と赤崎監督講演などが候補

#### ○東海・中部ブロック

・静岡福祉文化を考える会の活動を基盤に展開

〈前期〉・「共創社会実践研究会」の設置 ・広報啓発活動や、関係団体等との連携

・長寿者を取り巻く社会環境に関する調査や研修会の実施

〈後期〉・長寿者をテーマにした公開型研修会

・長寿者を取り巻く社会環境に関する調査、実践的事業の検証

#### ○北陸ブロック

・福祉文化現場セミナー「阿賀に生きる・阿賀の暮らし」交流セミナー：9月27、28日  
参加者 延べ21名

#### ○関西ブロック

・隔月の定例研究会を実施中

・今年度は現場セミナーを活発に実施した。

（前期は、マスコミ事業団、障害者スポーツ、気仙沼大島の子どもたち支援、奄美大島の結いの文化、パーのある特養などで実施。後期は「たんぼぼの家」（奈良県）訪問、気仙沼大島の子どもたち、おぢゃのみ工房への支援活動を継続予定）

・来年度の学会大会実施の準備

#### ○九州ブロック

・第25回全国大会大分大会の準備・運営

### 3) 委員会

#### ○総務委員会

・理事会への出席と会員アンケートの見直しを予定

#### ○研究委員会

- ・福祉文化よもやませミナールの開催（月1回）
- ・後期：「福祉文化研究」第24号特集テーマ「福祉文化研究の新地平」（大分大会の鼎談も掲載予定）を掲載予定あわせて「よもやませミナール」参加者の研究内容をまとめて掲載予定。
- ・→今後の学会を考える上での重要な成果になってくるので、新しい方向性を示し、かたちにしてほしいという意見が出された  
→まずは研究誌原稿を作成した上で、今後の成果の発表方法を検討する。また、今後の新しい方向性を示すのであれば、一研究委員会の「成果」を発表するだけではなく、新しいメンバーに加わっていただき、今後の学会としての研究について検討事項とも必要になるだろう。

#### ○企画委員会

- ・大分大会における「地域文化と福祉の創造」「実践と研究の融合」の検討と運営

#### ○広報委員会

- 〈前期・後期〉・福祉文化通信の発行74号 ・メールマガジン・ホームページの運営
- 〈後期予定〉・福祉文化通信の発行75, 76号・メールリストの活用・委員会の体制整備

#### ○「福祉文化研究」編集委員会

- 〈前期〉・「福祉文化研究」24号の発行、・編集委員会開催
- 〈後期〉・「福祉文化研究」24号の発行作業の遂行（2015年3月発送予定）
- ・今後投稿規定を見直す予定。

#### ○「福祉文化実践報告集」編集委員会

- 〈後期〉・「福祉文化実践報告集」第8号を半年遅れで8月に発行
- 〈後期〉・「福祉文化実践報告集」第9号の原稿募集及び発行準備
- この事業について今後考えてほしいことが意見として出された。：ここ数年、実践報告の原稿集めに苦労している様子が伺える。学会の財政状況が厳しい現在、研究誌と実践報告集の一本化を検討してはどうか。もし刊行を現行のまま続けるのであれば、積極的に実践報告者を開拓し、執筆依頼をするなど積極的な施策をとる必要があるのではないか、との意見が出された。

#### ○国際交流委員会

- 〈後期予定〉・留学生との交流会の企画を検討中。

#### ○災害と福祉文化委員会

- 〈前期〉・被災地支援を継続している会員の支援・協力  
(キルト教室、農業支援、気仙沼 大島での現場セミナーと子ども支援)

#### ○福祉文化実践学会賞選考委員会

- ・NPO法人「さんさんくらぶ」（藺田碩哉会員）の学会賞受賞の推薦説明と承認がなされた。

#### 第2号議案 2014年度予算執行見込み・補正予算案

- ・配布資料参照（特に大きな変更事項・注意事項は以下の通り）
- ・現状の執行見込みに合わせて補正予算を作成した。
- ・変更事項としては、2011年以降集まった災害援助寄付金の残額は一般繰り越し金に編入するのではなく、「寄付金」の欄にきちんと明示することとした。
- ・9月に新理事・評議員の顔合わせ会を実施したため、旅費が当初の40万から80万と倍増している。
- ・収支をみると収入に対して支出が、大幅に増加している。

→根本的に支出を抑えると同時に、収入を増やす方法を考えなければならない。収入が減少していく中では、会議の持ち方（特に旅費を伴うもの）など、様々なかたちを検討し、根本的に予算の組み換え方を見直す必要がある。収入の3分の1が事務費で消えてしまっていることは問題ではないか。会員に学会の活動を還元するブロック活動費が各ブロック5万円合計25万円というのはおかしい。各ブロックに対しては、会員数に応じた予算配分を検討してほしい。以前から予算の問題を理事会で課題としてあげられていたにもかかわらず、改善されない状況が続いている。その状況を次期理事に丸投げしてしまってよいのか。支出のどこを抑えるのかを考えるのは喫緊の課題であり、対応を後回しにすることは、学会の魅力を低減させることにつながり、早急な対応を求める。

→今回の理事会で具体案を練っていくことは困難であるため、新旧学会長と総務担当理事、積極的な意見をお持ちの梅津理事などで構成される緊急財政委員会（仮称）を設置して、1月の理事会に検討案を示す。検討案に対しては、他の理事にもメールなどでしっかり対応することをお願いしたい。

### 第3号議案 第6期評議員選挙結果について

- ・ 配布資料参照。4号議案とあわせて審議をお願いしたい。

### 第4号議案 第6期役員体制について

- ・ 2014年5月に選挙を実施し、6月に新しい体制の大枠ができ、9月に新理事の顔合わせ会を実施した。
- ・ 評議員候補者33名のうち6名が辞退されたため、次点の3名に依頼をし、計30名の方に評議員を引き受けていただいた。
- ・ 9月15日に第6期新しい30名の評議員のうち21名が参加された。、その中で、次期会長として馬場清現理事、副会長として岡村ヒロ子現理事、永山誠会員が承認された。評議員の五十嵐真一会員には、監事を引き受けていただいたため、評議員は1名減となり、第6期の理事・評議員は29名体制となる。ブロック担当理事が決まっていないブロックについては、当面東北ブロックは永山誠次期副会長、沖縄ブロックは岡村ヒロ子次期副会長が担当する。
- ・ 現在の会員数は、北海道東北ブロックが10名弱、中部東海は5、6名、北陸・新潟で7名、関東が138名、関西が70名、中四国が10名弱、九州が10名弱、沖縄が3名となっている。ブロック構成やブロック活動費については、先に意見が出されたことも踏まえ今後検討することになる。
- ・ 以上、審議の結果、第3号議案、第4号議案は議決された。

（なお、理事会当日、手元控えがなかったことで事務局、機部の記憶で人数を申し上げたが、以下が正確な人数。訂正してお詫びいたします。）

北海道ブロック	11名	東北ブロック	12名	関東ブロック	136名(団体4)	中
部・東海ブロック	27名(団体1)	北陸ブロック	21名	関西ブロック	68名	中
国・四国ブロック	27名(団体1)	九州ブロック	33名(団体1)			
沖縄ブロック	1名(団体1)	計	336名	団体	8団体	

### 第5号議案 2015年度事業方針（案）

- ・ 2015年事業方針について、馬場次期会長から説明がなされた。

#### 《重点目標》

- ① 新役員体制への速やかな移行
- ② 会員の満足度の向上と会員増及び会員の多様化に向けての取り組み  
この学会のよさは、福祉と接点のない方や現場の方が多様に参加されていたこと。研究者以外の方にも入ってもらえる働きかけをしていきたい。
- ③ ブロック活動の活性化
- ④ 全国大会の活性化

⑤ 福祉文化現場セミナーの活性化

⑥ 委員会活動の活性化

③～⑥については、予算の裏付けがない中で活性化をしていかなければならないので、創意工夫しながら、今ある仕組みを活かしていきたい。現場セミナーは現在一部のブロックでは積極的におこなわれている。会員数の少ないブロックについても、事務局主導でブロック活動を実施するなどして会員増につなげたい。

⑦ 福祉文化学会らしい企画の実施と社会への発信

他の学会とは異なるような活動をやっていききたい。これまで福祉で扱われていない分野を取り上げた「福祉文化ライブラリー」シリーズのような「新しい何か」に取り組みたい。

学会は研究集団なので、実務的な方針だけでなく、学会の存在価値を問い、高めるような研究そのものの問い直しを行って魅力を高めてほしい。「福祉文化学会らしい企画の実施と社会への発信」は最後ではなく、筆頭に掲げてほしい重要事項。スクラップアンドビルドをしなければ、先行きは暗いので、学会のあり方そのものを見直すような重点方針を書いてほしい。そのような視点から予算案も全部再検討してほしい。

今期の理事は理事着任中に会費未納で退会となるなど、理事会の体制が脆弱である。理事という足元の基盤が弱いので、互いに協力しながらやっていけるような理事体制の見直しを実施してほしい。

今回出された重点方針は、馬場新会長の所信表明として報告し、引き継ぎ期間を有効に使いながら、引き継ぎ期間に柔軟に改訂し、予算案の再検討とともに改訂して1月理事会に示すことで承認された。

第6号議案 2015年度予算書（案）

- ・ これから緊急財政委員会（仮称）を立ち上げ、運営方針とともに根本的に再検討していく。
- ・ 繰越金が5万円という厳しい予算案が示された根拠。→例年の収入支出を踏襲した上で削ることのできる予算はできるだけ削って予算をたてた。
- ・ 本質的に運営経営を見直さないといけない。総会では、最終的な予算案は理事会に一任してもらおうが、予算案を修正しなければ認めないという決議を行いたい。緊急財政委員会メンバーは、馬場新会長を中心に河東田現会長や総務委員会などで原案をつくり、1月の理事会前に新旧理事に新しい予算案を示して意見をもらう。
- ・ 予算の削減の方法としては、以下の提案がなされた。

① 理事会・評議員会の旅費に大幅な制限を設ける。

② 日本社会福祉学会では、紙媒体のジャガードを廃止し、刊行費が大幅に減った。

本学会も「福祉文化研究」の紙媒体での発行をやめてホームページでダウンロードする仕組みなどを検討してほしい。

③ 「福祉文化実践報告集」を「福祉文化研究」と一本化させる事の検討。

予算を削減することによって、次年度繰り越し金がぐんとあがってくるため、課題として出されている予算の活用方を検討してほしい。

総会では、緊縮財政ということで、理事、評議員、会員が萎縮しないよう、活発にブロック活動をしてほしい

こと、会員増加のための積極的な働きかけを行うことを伝える。

以上、第6号議案は、否決。1月の理事会までに緊急財政委員会（仮称）で検討して再提出となった。

第7号議案 2016年度第27回全国大会の開催について

現在検討中のため、決議事項からは外し、今回は議案から取り下げることとなった。

5. 報告事項

報告事項1 9月15日 第6期評議員候補者の会

報告事項2 2015年度第26回全国大会・神戸大会運営状況  
(関西ブロック・神戸大会実行委員会)

- ・会場；オリンピア（新神戸）社会福祉法人光朔会・実行委員長；小坂享子（神戸学院大学）
- ・会場と日程は現在検討中。200名程度の参加者を目標とし、地域文化から福祉をみる、をテーマにしていきたい。関西方面ではいろいろな取り組みをしている施設や団体があるので、今から探してわくわくドキドキする大会にしていきたい。

報告事項3 会員状況（2014年9月15日現在）

- ・個人会員336名、団体8団体。

その他

- ・研究発表の内容がしっかりわからないままに座長や副座長の依頼が出される点に対する疑問が出されたが、事前に座長副座長に報告要旨はお送りしており、現状できるかぎりの範囲で対応はしている旨回答がなされた。
- ・第5期の理事の中には、会費未納で理事としての活動をされていない理事もいる。また、体調を崩されて理事の活動ができない場合も考えられるため、そのようなケースの対応についても検討が必要との意見が出された。
- ・学会事務局の場所は変更はないか、との質問があった。事務局からは、現在のところと変わらないと回答。

《評議員会》

1. 2013年度事業報告および決算
2. 2014年度前期活動状況と後期事業の予定
3. 2014年度決算見込み・補正予算案について
4. 第6期評議員選挙結果について
5. 第6期役員体制について
6. 2015年度事業方針および予算について
7. 2014年度福祉文化実践学会賞について
8. 学会運営全般について（意見交換）

今回は評議員のみの出席はなかったため、以上のことは審議せず次の顔合わせへと移行した。

《理事会・評議員会の新旧役員の顔合わせ会》

事業内容の課題や新規事業の意見交換・引継ぎスケジュールの調整・連絡先の交換などを目的として、理事会・評議員会の新旧役員が一言ずつあいさつを行った。

- 学会長：河東田現会長「この6年間は一番ヶ瀬さんの亡霊をみながら、会長を務めさせていただいたという印象であった。自分に一番足りなかったのは広報だったと思う。私としては、人の前に出ることは会長の役割ではないと思って、あまり前に出ていくことをしなかったが、今後学会を発展させていくためには発進力がないとだめだと思う。人と手を携えていくことが必要で、今回馬場会員が会長になったのは、会員のそういう思いが反映されたのではないかと。馬場さんには学会の顔になってほしい。今年度から現場に戻って、研究と実践の融合の難しさを痛感している。こちらが色々提案しても、実践現場ではその提案がどんどんぼろおちてしまっているという感覚がある。」島田現副会長「旧理事と評議員は次の理事と評議員をサポートしてほしい。理事や評議員をはなれることによって、委員会や担当の枠を超えて自由に活動しやすくなる部分もあると思うので、今後も積極的に学会活動に関わっていただきたい。」

○ ブロック理事：

関西：福山新評議員「来年の神戸での大会があるので、今関西で行われている動きを止めないようしていきたい。」

東北：大澤現理事「東北の現状は、人数が少なく、会の参加に対して消極的であったり、批判的な会員がいる状況である。しかし、協力してくれそうな会員も一人はいるので、ご紹介していきたい。」

永山新理事「東北は震災後に調査にうかがったが、震災のダメージは非常に深刻であった。大澤さんの助言を受けつつ、どのようなかたちであれば暮らしの復興や生きていくための何かを一緒につくるようなことができるのかを検討し、具体的な行動につなげていきたい」

九州：雨宮現理事「九州はとても広い上に、会員が少ない。東京と比べて交通も不便で他県と協力しあうこともなかなか困難で各県で活動せざるを得ない部分がある。日比野新理事は九州の中心にいらっしゃるので、ぜひ積極的に活動していただきたい。」

日比野新理事「馬場新会長の目標を実現していきたい。現場セミナーを学問化する取り組みをしていきたい。現場での実践・取り組みを学問化していきたい。」

○国際交流委員会：マーレー現理事「国際交流についてのビジョンを描けておらず、十分に国際交流委員会の職務をやりきれていなかったため、申し訳なく思っている。関西ブロックの方のサポートも受けて、一度は関西ブロックで現場セミナーをもつこともできたが、細々とした研究を続けるのが現状。自分自身も、モンゴルに行かないかと藺田先生に誘われて入会したので、そのような活動は大きな魅力になりうる。もっと力点をおいて、やってほしい。理事個人の思いではなく、どういうふうにやっていきたいのか、ということについての理事会での思いを汲んで明確にできるとよい。」

岡村理事「マーレーさんの言葉を受け、学会としてどういうふう国際交流を考えているのか、早速メールで他の人から意見をもらいたい。留学生も関西ブロックではいるので、彼らや各大学にいる留学生に声をかけていただけるとよい。外国に行った時に、紀行文のようなものを寄せていただけると、文化のにおいを感じることができるのではないか。」

○企画委員会：マーレー現理事「企画委員会を2期務めたが、研究と実践の融合、地域文化の創造などの分科会を企画していた。しかし、なかなか理解されない。引き続きしていけたらいいと思う。福祉文化学会が大切にしているところをテーマにやってきたので、それも含めて引き継いでいただくとともに、新たに面白いことをやっていっていただきたい」島田副会長より「現場の実践を学問（研究）にしていくためにも、発表していただくことが大事。理事や評議員の方から協力を得たい」

多田理事「連続してやっているのですが、特になんということもないが、とってつけたように企画を考えるのではなく、本当は各ブロックの長の方にそれぞれ企画していただくのが本当はよいのではないかと。学会規模に比してこの学会は委員会が多すぎる。もう少し身の丈にあった組織構成にしていくことを考える時期にきているのではないかと。忙しさにかまけてできていないが、なにかやらなければならないと思っている。」島田「評議員の方にも役を引き受けていただくよう声をかけている。評議員の方とも協力しながら活動を進めていってほしい」

日比野新理事「個人ではなく施設で会員になっていただいて、発表をしていただくとよいのではないかと。」

○ 監事：前嶋現監事

「監事として書類を送っていただき、チェックしてきたが、書類をつくった側とチェックする側のコミュニケーションがうまくとれていない部分もあった。第三者としてみるとわかりづらい書類が存在しており、会計についても郵便局、現金、銀行と複雑な仕組みだったので、もう少しシンプルにできるかもしれない。しかし、お金がない中で、工夫してやっていただいているというのは伝わってきた。こちらから意見を言うことで修正も加え、事務局の方でも少し

ずつ変えてきてくださったので、五十嵐さんにも率直に意見を言っていただき、チェックしていただきたい。」

五十嵐新監事「監事がどういう仕事をするのか、そんなにイメージが湧いていない部分がある。理事のときに、新潟に事務局があった時に、場所を貸し、事務局に関わっていた時期があったが、その時も学会の財政が厳しいということで役員の旅費がなかったような時期であった。そのような時期を経験しながら、役員の旅費が申告制になっている現在、たとえば領収書をだしたり、旅費がわかるものをつけるなど、旅費の金額の正当性を明らかにした上で旅費を支払うようにしていったほうがよいのではないか。」


○ 事務局

磯部現事務局長「事務局の不備に対しては今日の理事会でもご指摘をいただいた。次期事務局には、様々な事項について段取りよく対応していただきたい。」前嶋新事務局長「磯部さんから教えていただきながら、できることを確実にひとつひとつやっていくということで、学会の役にたっていきたいと思う。」

以上、新旧役員の意見交換をもって終了となる。

2015年1月22日

議事録署名人

多田 千尋 

議事録署名人

國光 登志子 